

日韓トンネル通信

編集/発行
特定非営利活動法人
日韓トンネル研究会

事務局：東京都千代田区飯田橋4-1-11
〒102-0072 信濃ビル6階
TEL 03-3265-8813 FAX 03-3237-1012
E-mail office@jk-tunnel.or.jp

九州事務所：福岡市南区老司3-5-28-605
〒811-1346
TEL 092-566-7110
☎0120-09-2188

(話 題)釜山市長が「日韓トンネルを肯定的に検討する時期が来た」と語りました。



2015年12月22日、釜山市のソ・ビヨンス（徐秉洙）市長は、選挙公約のひとつであった「西釜山グローバルシティ」についてビジョンを発表し、「韓日海底トンネルも

ソ・ビヨンス釜山市長 肯定的に検討する時期が来た（釜山市公式サイトより）
と語った。

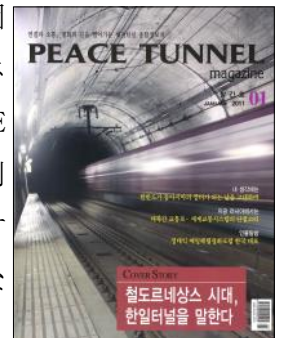
西釜山は洛東江のデルタ地帯に広がる面積437平方キロメートルの地域で、ソ・ビヨンス市長は「長期的には新空港や韓日海底トンネルを建設し、世界に繋がる拠点として西釜山を育成し発展させていく」と語った。

韓国では2011年1月6日に、国土海洋省が韓国交通研究院の調査結果を受け、日韓トンネルには莫大な建設費用に見合うだけの経済性がないと発表したことを境にして最近まで日韓トンネルに関する議論や関心が低調となっていた。

(報 告)世界平和トンネル財団創立10周年記念式に参加しました。

2016年2月26日（金）、韓国ソウル市のソウルプラザホテルで世界平和トンネル財団が主催する「世界平和財団創立10周年記念式および10年史出版記念会」が開かれ、当会の永野慎一郎理事が招待され出席した。

世界平和トンネル財団は、韓国初の海底トンネル専門誌である「PEACE TUNNEL MAGAZINE」を創刊し、日韓トンネルに関する論文を多数掲載するなどして韓国内での日韓トンネル計画に対する理解を深めた。



PEACE TUNNEL MAGAZINEの創刊号

(報 告)韓日トンネル研究会と協議しました。

2016年3月5日（土）、釜山にある社団法人韓日トンネル研究会のイ・ヨンフム（李龍欽）共同代表ら一行と当会の藤橋健次常任理事が福岡市で会談し、双方の研究会による共同研究のあり方などについて協議した。その結果、共同研究は①国際的・社会的環境に留意し、基礎的研究に重点を置く、②対馬海峡西水道の地形、地質に関する日韓双方の既存資料の突合せをする、③釜山付近から海域部への延伸が想定されるヤンサン（梁山）断層に関する小規模な合同勉強会を開催する、などの方針が打ち出された。

(報 告)日中科学技術文化センターで日韓トンネルを講演しました。

2016年3月31日（木）、一般社団法人日中科学技術文化センター（本部：東京都千代田区神田小川町）で日韓トンネルの講演会が開

かれた。講師は当会の野澤太三会長で、テーマは「日韓トンネル計画の事業評価と観光」である。野澤会長は「日韓トンネルは北朝鮮や中国も参加する取り組みであり、世界平和のために大変お役に立つ仕事」とその意義を語った。さらに2030年には8000万人を超える可能性のある訪日観光客の増加が日韓トンネルの交通量を英仏海峡トンネルに匹敵するものとし、経済効果を大いに高めると語った。

(報告) 当会顧問の中村忠彦氏のご逝去されました。謹んでお知らせいたします。



故中村忠彦顧問

当会顧問の中村忠彦氏が2016年2月17日に逝去した。享年79歳。

中村忠彦氏は玉川大学文学部を卒業後渡米し、米国マンマス大学政治学部、カトリック大学大学院国際関係部を卒業した。

ワシントンを拠点に、長年にわたる米国政府と日本政府間の同時通訳体験から日米間の諸問題について数多くの記事を新聞や雑誌に投稿。また自身の経営するギャラクシー・システムを通じ最新の米国時事を紹介し、政治・経済・社会などの問題を論じた。

2009年の当会顧問就任以降、仕事上で接触する多くの人たちに日韓トンネルの英文資料を渡すなどして理解者を増やしてきた。

(報告) 韓国建設技術研究院との合同勉強会を開催しました。

2016年4月13日(水)、千代田区飯田橋の当会本部にて、ソウル市近郊のコヤン(高陽)市に本部を置く政府系シンクタンク韓国建設技術研究院(KICT)地盤研究所の研究者3名

(Baek, Yong 研究委員、Kwon, Oil 主席研究員、Kim, Woo-Seak 研究委員)と合同勉強会を行っ



韓国建設技術研究院の一行3名との合同勉強会

た。一行は韓国のモッポ(木浦)とチェジュ(済州)島を結ぶ海底トンネルをモデルケースとして広く海底トンネル建設に関する地形・地質の調査法を研究しており、日韓トンネルもその研究対象となったものである。

合同勉強会では野澤太三会長が当会および日韓トンネル計画の目的や経緯を話し、大島洋志常任理事が自著「私の地質工学随想」と共著「わかりやすい土木地質学」を贈呈し、海底トンネルの地形地質調査について語った。

翌14日、一行は福岡市に移動し、当会の藤橋健次常任理事から日韓トンネル草創期に実施した陸域・海域部の各種調査の立案、実施、解析などについてヒアリングした。

また翌15日、一行は藤橋健次常任理事の案内で唐津市の東松浦半島や加部島周辺の露頭などを巡検した。

(報告) 幹事会が開かれました。

2016年4月18日(月)、千代田区飯田橋の当会本部で幹事会が開かれ、平成27年度の事業結果や28年度の事業方針などを検討した。

平成28年度の事業方針では韓国側団体と共同研究する体制づくりを進めること、特に技術面で対馬海峡西水道の地形・地質の調査を深化し、実行可能なプラン策定のため実績あるトンネル掘削工法を研究する方針が打ち出された。